

# 1月食育だより

【今月の目標】

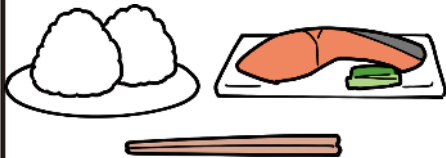
食について考えよう！

令和7年1月 中学生用

## 「給食の思い出を聞こう！」

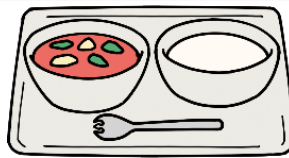
1月24～30日は、「全国学校給食週間」です。昔の給食について学んだり、お家の方へ給食の思い出を聞いたりしながら、今の給食とどんな違いがあるのか考えてみましょう。

明治22年  
(1889)



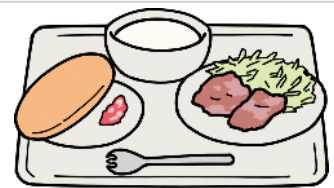
山形県鶴岡市にあった私立忠愛小学校で出された最初の給食。どの子にも教育を与えたいと市内の寺院が共同で設立した学校でした。献立はおにぎり、塩づけ、漬物です。負してお弁当を持ってこられない児童のために、お坊さんたちが托鉢をして浄財を集め、実施されたそうです。

昭和20年代  
(1945～54)



昭和21年12月24日、東京などで学校給食が再開され、翌22年から全国に広がっていきます。戦後の食糧難に苦しむ日本の子どもたちを見て、海外から届けられた支援物資とともに、ミルク(脱脂粉乳)、トマトシチューなどが提供されました。昭和25(1950)年から全国学校給食週間が始まります。

昭和30年代  
(1955～64)



昭和29(1954)年に「学校給食法」が成立し、学習指導要領では給食が教育活動に位置づけられました。アメリカから給食用小麦粉とミルクの提供があり、パンにミルクの給食スタイルが定着していきます。絵はコッペパン、ミルク、くじらの竜田揚げ、せんキャベツ、ジャムの献立です。

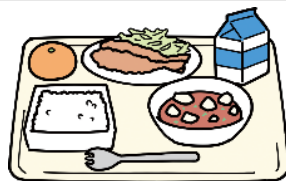
※托鉢・・・仏教の修行の一環で家々をまわること

昭和40年代  
(1965～74)



戦後復興を遂げ、献立内容もバラエティー豊かになります。昭和39(1964)年の東京オリンピックを境にミルクが牛乳に変わっていきました。この頃、米の自給率も日本史上初めて100%に到達。主食の種類を増やそうと「ソフトめん」も登場しました。絵はソフトめん、牛乳、カレーシチュー、甘酢あえ、チーズ、黄桃缶詰の献立です。

昭和50・60年代  
(1975～88)



食生活の洋風化が進みました。外食産業が成長し、農産物の輸入自由化も拡大します。国内では作った米が余り始め、消費拡大のために米飯給食が始まりました。初めは家からご飯だけを持参するスタイルの学校もありました。絵はご飯、牛乳、ししゃもフライ、せんキャベツ、マーボー豆腐、みかんの献立です。

平成・令和  
(1989～)



バブル景気がはじけ、阪神淡路大震災が起り、食品の安全性に関わる事件も多発。国民の食に対する意識が高まり、平成17(2005)年に食育基本法と栄養教諭制度ができます。現在、学校給食には栄養面に限らず、和食など食文化の伝承など、子どもたちの心と体を豊かに育んでいくための大きな役割が期待されています。